

卒業生が保護者に書いた手紙の中に「しかつてくれてありがとう。」という言葉がありました。その言葉の前に書かれていたのは、「わたしのために」でした。「ほめることが大切」といわれますが、同様に「しかつて」ことの大切さもいわれています。確かに、子どもから「悪いことをしたのに見て見ぬふりをして、しからないのは嫌です。」という声を聞くことがあります。しかし親からは「しかつても言うことを聞きません。」という声を聞くこともあるのです。

集団生活では、ルールがとても大切です。家庭でも学校でも集団生活をする上でルールの大切さを学んでいきます。しかし、できないことが目に入ると、どうしてもしかることが多くなりがちです。「約束したでしょ。」「何度言ったらわかるの。」「禁止や命令語が多くなると、子どもは攻撃されると感じるようになります。そして、聞き流したり、反発したりするようになるのです。

「子どもの行動には、理由があるはずですよ。まずは話を聞くことから。」ということもよくいわれています。ルールを守れなかったり、トラブルがあったりしたとき、話を聞いた上で、「○○がよくなかったからだよ。」と原因を指摘したり、「○○すればよい。」とアドバイスをしたりす

ることがあると思います。けれども、ときに子どもから聞かれる言葉は「全然わかってくれない。」と真逆のこともあるのです。

以前、担任をしていた子どもがうまくできず、どうせ自分はダメなのだと思定になったときに、どのようなアドバイスをしたらよいのかと悩んだことがあります。しかし、なかなかよいアドバイスがみつかりませんでした。そのとき口から出た言葉は「辛かったね。」「頑張ったね。」でした。すると、硬かった表情が消え、涙を流し、自分の気持ちを語り始めました。その様子に驚くとともに、今まで何も聴いていなかったこと、見ていなかったことを痛切に感じました。

何度も繰り返し注意することが、大人の都合だと感じたとしたら、原因の指摘やアドバイスをが大人本位の考えだと感じたとしたら、言葉は子どもの心に届きません。大切なのは、「結果だけでなく、プロセスに目を向けること」「相手の立場に立って、見て、聴いて、感じる。」「共感すること」「卒業生の手紙の言葉「わたしのために」は、子どもが自分の心に寄り添う親の思いを感じたからだと思います。

「しかる」ことも大切です。心に届くように、信頼関係を築きながら。

**連載・青少年健全育成シリーズ 第306回**

**「しかること」**

青少年の声かけあいさつ運動の推進  
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

毎月第1日曜日は「家庭の日」  
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。  
青少年育成都留市民会議編集委員

**広報「つる」広告募集！**

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？  
広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています  
(10,300部発行)ので、多くの方の目に触れます！

問合せ先：総務課 法制広報担当

**広告料金**

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月  
⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。  
掲載状況は、下記をご参考としてください。  
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄